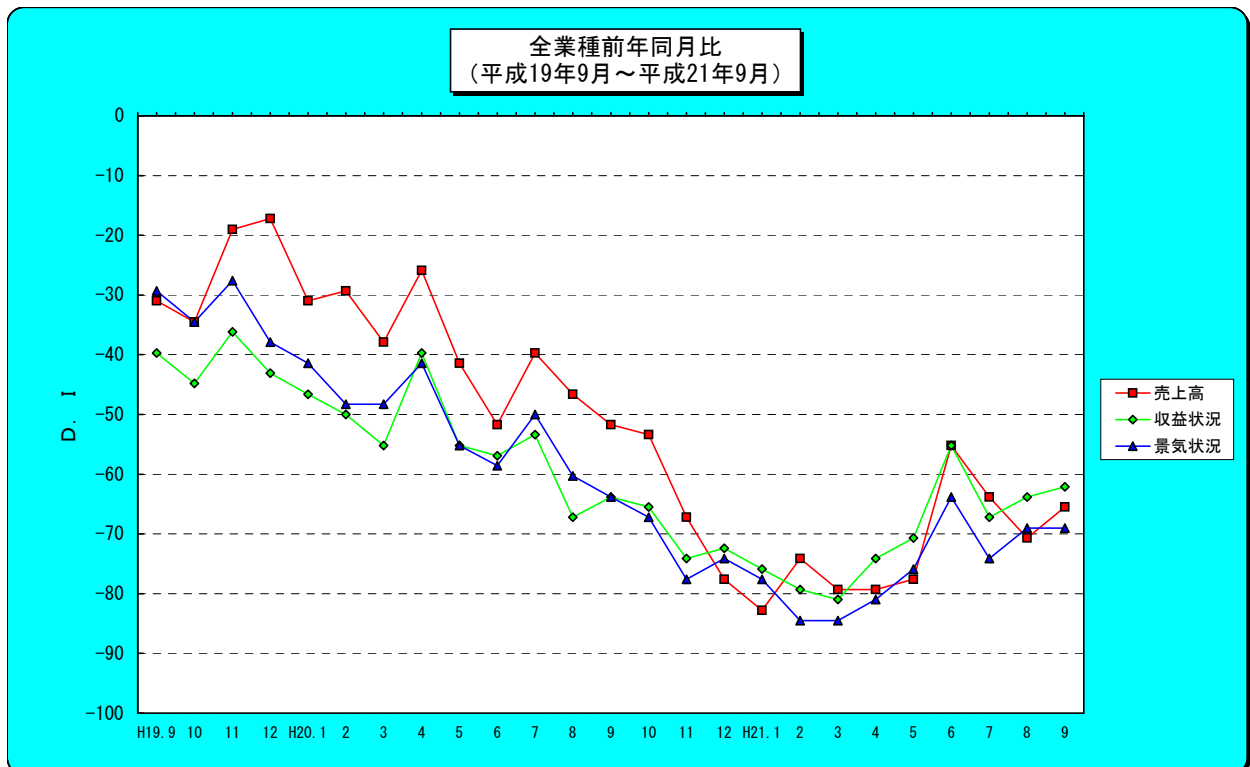


県内の情報連絡員報告

■平成21年9月分

- **9月のDI値**は、前月と比べ全9項目中4項目(「売上高」、「取引条件」、「収益状況」、「資金繰り」)で改善が見られた。これは非製造業において連休での賑わい等により、各項目で改善が見られた一方、製造業では改善が見られず深いマイナス域に留まっていることが相まったものである。いずれも今後の動きに注視する必要があるとしている。
- **製造業**では、3項目(「在庫数量」、「雇用人員」、「業界の景況」)について悪化し、その他の6項目は前月と変化が見られなかった。中でも「売上高」、「収益状況」、「業界の景況」の主要3項目はここ2ヶ月間マイナス70を下回る状況が続いている。鉄工・機械関連においては、エコカー減税等の効果により自動車部品関連の一部で操業度が高まったところも見られるが、総じて仕事量が回復せず、受注があっても小ロット・短納期のため生産効率は上がらず、また、コストダウンの要求が強いため、収益の回復に繋がっていない模様である。
雇用状況については、雇用調整助成金の活用が継続されているが、その支給要件として売上高や生産量が一定期間低い水準を続けていることが求められているため、比較要件に該当せず、制度の活用が出来なくなるケースが生ずる恐れがあるため、早急な要件緩和等の見直しが求められている。
- **非製造業**においては、「在庫数量」と「販売価格」を除いた6項目で改善が見られ、「売上高」では11.1ポイント上昇しマイナス51.9となった。これは高速道路ETC休日割引とシルバーウィークの効果が相まって、県内各地に賑わいを創出したこと等によるものと考えられる。特に商店街においては、同時期に開催したイベントの集客に成功し、まずまずの売上高となったところも見られた。ただ、この状況は一時的な需要増との見方も強く、また、消費者は低価格志向が継続していることから、今後を懸念する声も聞かれている。
なお、エコカー減税の効果も継続しているようであり、自動車の新規登録台数は増加している。
- **新政権発足**については、景気回復に繋がる施策や無駄な予算の削減が期待されている一方、施策実行に対する財源の確保や施策が実現できなかった場合の失望感が更に景気を悪化させることを懸念する声が聞かれた。
なお、高速道路無料化と返済猶予制度については意見が分かれ、効果が期待されている一方で疑問視する声も聞かれた。

◇全業種の前年同月比推移 (H19.9~H21.9)



| | 集計上の分類業種 | 具体的な業種 (産業分類細分類相当) | 組合及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点) |
|-------------|----------|-------------------------|---|
| 製 造 業 | 食料品 | 調味材料製造業 | 県内の醤油出荷量は4ヶ月ぶりに前年同月比でやや減少となった。1～8月までの累計では、前年同期をかなり下回ったままの状況が続いている。 |
| | | パン・菓子製造業 (パン) | 新型インフルエンザの影響を懸念して事業継続計画に対応すべく、情報を各企業に提供し対処してもらっている。 |
| | | パン・菓子製造業 (菓子) | シルバーウィークには多くの観光客が県内に入ったが、出費を抑えているようで売上が上がらず、依然として厳しさが続いている。 |
| | 繊維・同製品 | 織物業 (小松市) | 公共事業の見直しにより、インテリアカーテンの受注が落ち込んでいる。当産地衣料素材は需要期に入っているものの、依然として消費者の節約傾向が続いているため、受注は少ないままである。エコ自動車的好調な売り上げによるカーシートの受注が期待されたが、生産が戻ったのはごく一部に留まっている。中近東向け差別化繊維は順調に推移しているが、円高の進行が不安である。新政権に期待することは適切な中小企業向け施策の早期実施と地方に財源を交付してすべての産業に公平な消費拡大策や産業育成を図ることであり、懸念事項としては過度な返済猶予は企業のやる気やモラルにとってマイナスと思われる。 |
| | | ニット製品製造業 (県域) | 総じて持ち直しの気配はなく、下がることを止めるのが精一杯の状況である。円高や製品安から、縫製はともかく生地づくりに関しても国内志向が強かったスポーツブランドやレディースブランドが海外生産へのシフトを強めており、来シーズンの国内生産は更なる縮小に追い込まれると見られている。 |
| | | その他の織物業 (染色加工) | 組合員の現状は不変または悪化となっている。売上高は前年同月比で多少悪化しており、回復の兆しは見られない。10月以降に展示会を開催しこの結果を期待したいが、良い材料はあまりない。この様な状況が続くと産地の疲弊は益々深刻を増すことになる。新政権に期待することは経済対策による景気の安定化であり、懸念事項は予算等の見直しにより補助金や助成金がカットされる恐れがあることである。 |
| | | その他の織物業 (織マークの生産・加工) | 9月度の売上高は、対前年同月比で30%の落ち込みとなった。一般消費の低迷が続く中で業界の落ち込みは過去最大となっており、極めて厳しい状況である。現時点では一向に回復兆候がなく、消費の更なる低迷と景気の底割れ感が漂い始める状況が展開しそうだ。 |
| | 木材・木製品 | 製材業、木製品製造業 (金沢方面) | 9月度の売上高は例年並みであった。今月に入り、合板価格がメーカーの生産調整により僅かであるが上昇を見せてきた。ただし、需要の先行きは不透明である。 |
| | | 製材業、木製品製造業 (能登方面) | 木材需要は静かに上がっており、不景気のため急ではないが確実に値上がりが見える。 |
| | | 家具製造業 | 受注減に加え、単価は厳しい状況にある。 |
| | 出版印刷製造業 | 印刷製造業 | 売上高と収益状況については、前月から変化が見られない。今後の見通しに明るい展望が見込まれない。 |
| | 窯業・土石製品 | 生コンクリート製造業 | 9月の県内の生コンクリート出荷状況は前年同月比83.2%であった。地区別で見ると、鶴来・白峰地区がプラス出荷となったが、南加賀、金沢、羽咋・鹿島、七尾、能登地区がマイナスであった。なお、官公需は95.3%、民需74.9%となった。今後、生コンクリート使用事業の厳しさは一段と進むものと思われる。この時こそ知恵を出し、地域のために何をすべきかの検討が必要である。新政権において、今までとは違う考えが必要となるため、各企業も再考の必要があるであろう。 |
| | | 砕石製造業 | 9月分の組合取扱い出荷量は、対前年同月比で生コン向けでマイナス6.3%、アスファルト合材向けでマイナス5.8%、全体出荷量でマイナス6.2%といずれも減少となった。4～9月の上半期においては、特需の出荷が全体の12.3%を占め、自然減少分を下支えする結果となり対前年同月期でプラス2.6%とわずかに増加となった。ただし、下期においては非常に厳しい状況が予想される。 |
| | | 粘土かわら製造業 | 売上高は連休の影響により若干減少となった。収益については、黒字を確保するものの売上高の減少分が低下した。住宅着工の低迷により年末に向けての不透明感は依然として強く、売上減少傾向は当面続く見通しである。新政権に望むことは住宅優遇税制の更なる実施である。 |
| | | 陶磁器・同関連 製品製造業 | 売上高は微減傾向にある。このままの業況が進めば職人離れが進み、産地に造り手がいなくなることが懸念される。秋の祭典を実施し、ETC高速道路休日割引により例年以上に集客できたが、客単価は低かったと思われる。 |
| | 鉄鋼・金属 | 鉄素形材製造業 (鉄鉄鑄物の製造) | 2月を底に生産量はプラスとなっているが、まだ対前年比で55%の状態である。特に工作機械や産業機械の回復が遅れている。まや、受注単価は思わしくなく、損益は厳しい状況が続いている。新政権に期待することは早期の景気回復であり、懸念事項は雇用助成金の継続についてである。 |
| | | 鉄素形材製造業 (鉄鉄鑄物の製造・修理) | 新聞等において政府等が発表している景況の上昇気運について、当工業団地の組合員企業には実感がなく依然として低迷したままであり、先行きの不安をかかえ懸命に努力を重ねている現状である。当月も大半の企業で教育訓練研修会が継続された。 |
| | | 非鉄金属・同合金圧延業 | 依然として金箔等の需要が低迷している。消費動向は先月と同様厳しい状況である。工芸品等については、低価格の商品が売れているが、思ったより売上が少なかった。新政権には需要の拡大策に期待する。 |
| | | 一般機械器具製造業 | 今年に入って、9ヶ月間同じ様な悪い状況が続いている。良くなるといった話を聞くが実際は違う。工作機械関連業界は来年末まで同様な状況が続くと思われる。新政権に期待することも懸念することも半分ずつといったところであり、3ヶ月もすれば意見らしいものが出てくるであろう。 |
| | 一般機器 | 機械金属、機械器具の 製造 | 9月度の売上高と収益状況については、依然として共に低い水準での横ばい状況である。中間決算に向けての動きは特に見えなかった。ここきて、工作機械や建設機械の一部に製品在庫の調整が徐々にではあるが進んでおり、実需に見合う生産が行われるようになってきている。ただ、その量は期待するほどのものではなく、小ロット・短納期のため生産効率は悪く、また特別協力要請による低価格受注と併せて、一層収益増になり難い環境であろうと思われる。欧米の先進国の景気上昇が見えてこない、輸出を柱とする産業機械業界の浮上は望めないであろう。発展途上国市場への機能を絞った低価格機投入が効果を出してくれることに期待したい。新政権に期待することは、消費性向の上昇が起これば景気回復も期待できそうということである。懸念事項としては、何が無駄で何が無駄でないのかその判断基準が不明確なことである。 |

| | 集計上の分類業種 | 具体的な業種 (産業分類細分類相当) | 組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点） |
|------------------|---------------------|--|---|
| | 一般機器 | プレス、工作機械 | 9月度の受注状況は3月以降今なお低水準である。6～7月に一時感じられた業界全体の底打ち感には上場企業の決算見通しの下方修正とともに鳴りを潜めつつある。川下の企業では今後も厳しい状況が続くと予想される。売上高は前年同月比でマイナス65%、前月比ではプラス5%となった。4月以降は低調に推移している。収益面では経費削減効果により赤字幅を抑えているが、下期の売上回復がなければ通期での利益確保は難しい。また、経費削減には限界がある。雇用に関しては、組合員各社とも休業・教育訓練による雇用調整助成金の活用は当面継続する予定である。新政権に期待することは、中小企業に対する経済対策であり、懸念事項はむやみな返済猶予では銀行の貸し出しに支障が生じ、金融機関が麻痺する可能性があることである。 |
| | | 機械器具及び其の他 金属製品の製造 | 組合員の生産活動は業種によって格差が出ている。車関係ではメーカーの減産緩和や環境車減税等の効果で操業度が上がってきたため、収益状況は前年同期に及ばないが回復してきている。二輪は大幅な落ち込みとなっており、先の見えない状態である。繊維機械は多忙であり、昨年末で打ち切った派遣労働者の再雇用にも踏み切る企業もあるものの、契約期限付きである。工作機械は国内設備投資が少なく仕事量が少ないため、車関係や液晶関係でワークシェアし、雇用を維持している企業がある。大手メーカーの下請企業は依然として受注はほとんどない状態が継続している。新政権に期待することは、行革を早く実行して欲しい。天下りは一番の無駄遣いだと思う。懸念事項はマニフェストをいかに実行できるか財源が心配である。また、高速道路無料化はおかしいと思う。 |
| | | 機械、機械器具の製造 又は加工修理 | 組合員の繊維機械部品加工においては、前年同月比99.3%であったものの平成19年度対比では55%である。工作用機器は17%である。繊維機械メーカー以外への売上については、建設機械や工作機械は今まで悪かった中でも良い方であった。焼却、水、ゴミ処理等の公共投資関連は注文がストップしている。 |
| | | 機械、機械器具の製造 又は加工修理 | 繊維機械は中国市場頼りであるが回復してきている。農業機械は昨年の45～50%という水準である。全体的には大企業には仕事が出てきているが、中小企業は増えていないようである。また、発注先からは35～40%の価格ダウン要請があり、国内での競争から中国等の海外と安値競争が底にあるようである。今まで比較的落ち込みの少ない業種でも下期に赤字が拡大しなくても昨年の4割程度になる見込みであるため、2番底があることを懸念している。新政権に期待することはダム以外の公共事業を行うことと景気対策についてであり、懸念事項はC0225%削減に対し中小企業がどう対応できるかである。 |
| その他の製造業 | 漆器製造業 (能登方面) | 売上高、収益状況は前年を下回る状況が続いている。百貨店・小売ともに売上の減少が継続し今後もこの状況が続くようである。シルバーウィークはゴールデンウィーク並みの入り込みだったが、大きな売上増に繋がっていない。新政権についてはどうなるのかわからない。 | |
| | 漆器製造業 (加賀方面) | 売上高は前年同月比で2桁を超えるマイナスとなり、原材料高もあり収益状況は悪化している。例年9月中旬より動き出す秋冬シーズンの滑り出しは低調で、特に伝統的な木製漆器が振るわない。木製漆器バイヤーを対象として30数年間、産地で開催されていた見本市を東京に移して開催を行う等の努力により販路の拡大を図っているが、依然として思われない成果は得られていない。近代漆器においても、弁当箱等の一部商品を除いては動きが鈍い。会館の入館者数は、シルバーウィーク期間中は増加したものの全体では前年同月比30%以上の減少となっており、ETC高速道路割引の効果は感じられなかった。 | |
| | プラスチック製品 製造業 | 売上高は対前年同月比で10%減少している。収益面においても原材料費の上昇に伴い減少している。経費削減中であるが、売上減や原材料の上昇をカバーしきれない非常に苦しい状況である。新政権に期待することは返済猶予の延長であり、懸念することは最低賃金の時給1,000円である。 | |
| 卸売業 | 各種商品卸売業 | 世界同時不況の影響により、一般消費が萎縮して低価格品で我慢するかもしくは買い控えが表面化しており、組合員の大半が売上、採算ともに悪化し、今後もこの傾向が強まるものと思われる。新政権に懸念することは、返済猶予についてであり返せない先に貸し出すことはできないという金融常識を覆すことになるため、金融機関が成り立たなくなり正常な企業に悪い影響が及ぶことになる。 | |
| | 繊維品卸売業 | 政権が代わっても業況が良くなったとか更に悪くなったという実感はない。景況は厳しい状態のままであるが、大きい声を出すわけでもなく、静かに耐えているのが現状である。 | |
| | 水産物卸売業 | 9月の買受高は、対前年同月比5.9%減と前月の9.9%減から見るとわずかながら改善されているものの、本来の姿にはほど遠く大変な状況である。政権交代により景況が改善されるか否かは別として、新しい元気の出る政策を心から期待している。業界としても魚食の普及活動等を推進し、少しでも売上が伸びる努力を地道に続けていきたい。 | |
| | 一般機械器具卸売業 | 売上減に加え、価格の乱れに歯止めがかからない。オール電化の分野は比較的利益が取れていたが、流通経路の乱れから価格競争に巻き込まれて最悪である。政権交代による建設関連の事業見直し等、良い材料は何もなく、今後の見通しも真暗である。 | |
| 非 製 造 業 | 百貨店・総合スーパー | 対前年同月比の売上高は全体で93.34%となった。部門別に見ると、ファッション88.93%、服飾・貴金属103.36%、生活雑貨96.84%、食品95.04%、飲食94.70%、サービス79.06%、客数は96.87%であり、前月に比べ少し持ち直してきた。ファッションも気温の変化や季節の変わり目ということもあり、売上の起伏がでてきた。貴金属は、個店ベースでの努力の結果である。食品、飲食、サービスとこれまで影響の少なかったものが落ちてきている。リーマンショックより1年を経ての昨対をわわっている状況は、今後さらに不安を感じている経営者も多い。シルバーウィークや高速道路休日割引は、中型規模のSCにおいてはマイナス要因の方が強い。今後は行楽後の帰りに寄ってもらえるようなSCづくりが必要と思われる。新政権について、期待度は皆一様に高い。子供手当などにより相対的な需要が促されるのではという期待感がある。その反面、期待が実現しない時は、全体的な意識が低下し結果的に消費に大きく反映しそうだ。 | |
| | 男子服小売業 婦人・子供服小売業 | 依然として不安要素が多い中、夏物と同様に初秋物商品もまた販売に結びつかず、売上高はまさにジリ貧であり、前年同月比79.1%と大変厳しい状況であった。大型店の値下げにより、各店も値下げをして粗利率を減らしたあげく減収減益となっている。ファッションとしての衣料品の存在感が薄れてきている。シルバーウィークは他地域への流出や地域イベントにより、売り上げへの貢献はなく、平日と同様となった。経済活性化のためにも、消費者に購買意欲をかき立ててもらいたい。新政権については、即成果は難しいものの大いに公約に期待している。特に中小零細小売業において、当面の在庫資金及び返済猶予について非常に関心が高く、ぜひ実現して欲しい政策である。 | |
| | 水産物小売業 | 9月に底曳きが解禁となり、当初は入荷が少なく高値がついた。その後入荷されたものの売れない状況が続いており、困っている。 | |
| | 青果小売業 | 一時、価格が高騰した青果物は安定して売上高及び収益状況は前年並みとなった。新政権には景気回復を期待する。 | |
| | 米穀類小売業 | 日照不足が心配され作況指数はやや不良となつてと思われたが、心配したほどではなかった。収穫時期には農家の直接販売があるため、業界では売上の減少は例年のことである。秋は運動会や遠足のシーズンであるが、最近ではコンビニの弁当で済ませる傾向にあるため、家庭の消費に繋がらないようである。新政権に期待することは、農家の個別保証により農に対する考え方が変わってくるのではないかと期待している。 | |
| | 機械器具小売業 | 平成21年9月における地域店の売上の伸びは、対前年同月比で90%であり、収益も減少した。エコポイント効果によるカラーテレビの伸びは150%と好調であったが、販売の主力が32型を中心とした中型機種となったため単価ダウンとなった。これは一家の中心機種から2～3台目の買い換え需要となったことと思われる。そのため、ルムニアコンは60%、エコキュート70%のダウン分をカバーできなかった。また、地デジ対応の進んでいる世帯と未対応世帯の対応格差が見られる。ただ、買い換え需要が増加していることは間違いないため、年末に向けての合同展示会により需要の確保に取り組んでいる。新政権に期待することは、過度な規制緩和の見直しによる中小零細の保護政策についてであり、懸念事項は補正予算大幅見直しことによる公共事業の削減に伴う景気の後退である。 | |

| 集計上の分類業種 | 具体的な業種 (産業分類細分類相当) | 組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点） |
|----------|------------------------------|--|
| 小売業 | 燃料小売業 | 週末やシルバーウィーク時の不毛な値下げ競争で収益は悪化としている。景気の低迷や消費者の節約志向の定着により販売量や額も減少している。また、シルバーウィークの恩恵も高速道路のSA・PAを除いた市街地の給油所は期待はずれとなった。新政権に期待していることは、自動車燃料の暫定税率廃止は業界が永年要望していたことであるが、昨年4月時のように高い税率の在庫を低い税率で販売せざるを得ないということがないよう事前の措置を希望する。懸念事項は、暫定税率が廃止されても代わりの新税を賦課されるのではということである。 |
| | 他に分類されない その他の小売業 (土産物) | 9月は売上高が増加したが、要因は5連休があったことである。8月末に選挙があったため、旅行を延期したお客様が今月に変更したことも考えられる。5連休はGWと同様に多くの観光客の来県があり、今回はETCを利用したマイカーだけでなくJRや飛行機のお客様も増加したようである。新政権が掲げている高速道路無料化は半額が良いと思う。ただし、土日だけでなく365日同一条件で実施して欲しい。 |
| 商店街 | 近江町商店街 | シルバーウィークは5月の連休より人出が多かった。飲食店の活が見られるが、鮮魚や青果はいま一つであった。 |
| | 尾張町商店街 | 連休でそれなりの人出はあったものの、売上にまったく比例していない。街並みの賑やかさはありがたいが、この不況を反映して無料の所へ立ち寄るか歩いて見学するだけとなっている。これだけ厳しい景況の中、満足するような商品展開が必要なことを思い知らされる。 |
| | 堅町商店街 | シルバーウィーク期間中、高速道路ETC休日割引効果に加え市中心部でイベントが行われ、多くの集客ができた。しかし、街中での滞在期間は増えたものの大きな消費のプラスまでには至らなかった。新政権となり、地方における予算の減少がないか心配である。 |
| | 片町商店街 | シルバーウィークに多彩なイベントが開催され、今年一番の人出でGWやお盆以上に大変賑わった。個人消費は低価格傾向が継続していることにより収益率が低いことには変わりはないが、普段より集客が多かった分まずまずの収益が出た様子。引き続き10月の連休にもイベントを開催するので、こちらも集客に期待している。新政権について、高速道路無料化や子ども手当により、少しでも消費が上向くことに期待している。ただ、公共事業の見直しにより北陸の経済を支えている外需系企業の減産や大手建設業の倒産が相次ぐ等で個人消費の低迷を長引かせる結果となり、商店街を取り巻く環境は非常に厳しい局面になることが懸念される。 |
| サービス業 | 旅館、ホテル (金沢方面) | シルバーウィーク期間はほぼ満室となったが、それ以外は依然として低調である。また、最近は大規模なハイールフ車が多く、駐車場の確保が問題となっている。新政権には、無駄な予算を削減し有効的な税の使い方と中小企業への支援に期待する。 |
| | 旅館、ホテル (加賀方面) | リニューアルを行った旅館はそれなりに利用者を維持できているが、全体的に消費単価が下がっているため厳しい状況に変わりはない。そのため、売上高はマイナス基調であり収益状況は改善されない。シルバーウィークはETC休日割引の効果もあり、ゴールデンウィークより動きがあった。しかし、全体的には昨年来の経済不況の延長上にあることから脱していない。新政権には、現状維持の施策ではなかなか現状から脱しきれないと思われるため、更なる内需策に期待したい。 9月の宿泊人員は、温泉地全体において対前年同月比96.8%で1,246名の減少となった。売上高は宿泊人員から見て引き続き落ち込みは避けられない状況である。シルバーウィーク期間中はGW並みの動きが見られれば満室となったが、要因はETC高速道路割引の影響と見られ、土日祝日に利用が集中し平日は予約が入りにくい傾向が見られるため、単にプラス効果であると言えない。新政権については、高速道路無料化により集客に大きな効果が見られると思われ地域の活性化に繋がると考えられるため早期実現を期待している。懸念事項は、予算の大幅な見直しによる北陸新幹線等をはじめとした公共事業の見直しについてである。 |
| | 旅館、ホテル (能登方面) | 9月度の宿泊人数は、シルバーウィーク期間のみ増加したものの、全体的には低調であった。また、個人客が多く団体客減少の影響が大きい。売上高は対前年同月比で91.5%であり、一人当たりの消費額は98.8%と厳しい状況が続いている。 |
| | 自動車整備業 | 継続検査実績車両数の前年同月比は、登録車と軽自動車の合計でプラス0.2%で推移しているが、登録車だけで見るとマイナス0.3%となった。この要因はエコカー減税と補助金制度による影響で新規販売台数は前年同月比でプラス10.4%とプラスとなったことが車検台数の減少に繋がったと思われる。従って新規登録状況はプラス110.4%となり、13ヶ月ぶりに対前年同月比プラスとなった。軽自動車はマイナス10.4%と2桁台のマイナスとなった。なお、4~9月の上半期においては、登録車は91.0%、軽自動車は86.1%の合計マイナス10.8%の89.2%となっている。 |
| | 建設業 | 総合建設業 |
| 鉄金工事業 | | 施工単価の競争が激しく、収益は極めて厳しい状況にある。 |
| 室内装飾工事業 | | 売上高は業界として15%前後の落ち込みが見られる。少ない箱物の受注は競争が激しく、ローコスト住宅についても受注が少ないようである。リフォームの仕事はあるが、規模が小さいため手間がかかり利幅は小さい。今後の見通しについては、より一層の厳しさを感じており不安である。新政権について、無駄を省くことは大切であるが物事には程度があることを考えて対処して欲しいと考える。 |
| 管工事業 | | 給水装置工事受付件数は前年同月比で20%の減少となり、ガス管工事受付件数はほぼ横ばいであった。受注環境の悪化が続いているため、早期の民需回復が望まれる。新政権については、補正予算凍結による公共工事の影響が不明なため、先行きが不安である。 |
| 運輸業 | 一般貨物自動車運送業① | 軽油の価格はほぼ横ばい。円高になってきているため値下げに期待したいところである。季節的な農産物の荷物はあったが、シルバーウィークもあり全体的には前月程度であった。新政権により、 Manifestoの実施に伴って暫定税率撤廃や高速道路無料化がどうなっていくか気になるところである。国土交通省では、10月から行政処分基準等の強化を図り、社会保険未加入や経営体質の面からも事故防止対策を図ることになっている。 |
| | 一般貨物自動車運送業② | 9月度の売上高は前月比でプラス8.2%となったが、前年同月比でマイナス22.6%であった。8月に比べ米穀の動きがあったため少し上がったものの、上昇の幅は思いの外悪い状況である。従って、収益状況にほとんど改善は見られない。新政権については、返済猶予が可能となれば資金繰りは多少楽になるだろうが、経営努力を鈍らせる恐れがあると思われる。高速道路無料化についても、必ず渋滞し到着時間の予想がつかないため運送業者としては大変迷惑する。高速道路料金はスムーズに走る為のコストであると考えている。 |